



# 賀正

株式会社  
イーデイシー  
取締役社長 松尾 三郎

ソフトウェア  
コンサルタント 株式会社  
取締役社長 松尾 三郎

高周波熱錬 株式会社  
取締役社長 土方 利夫

日立化成工業 株式会社  
相談役 高木 正

株式会社  
電気評論社

四電エンジニアリング  
株式会社

取締役社長 長島 修

四国計測工業 株式会社

千代田化工建設 株式会社

株式会社  
日立製作所中国支店

中電化工株式会社  
取締役社長 中島 正雄

財団法人  
応用科学研究所

## 新年のご挨拶

洛友会副会長 大谷 泰之

明けましてお目出とうございます。会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ご承知の通り昨年は円高不況に揺れ、産業、経済、政治、社会等各方面での変革と激動の年でありましたが、今年も尚一層の厳しさが予想されております。このような年代こそ科学技術革新や情報化等の推進と共に、来世紀を担う人材の育成の重要性が益々高まるものと考えられます。

さて昨年の暮れ十二月十四日、アメリカンフットボールの学生日本一をきめる甲子園ボウルで、母校京大の素人軍団が見事優勝した

### 教室だより

#### 懇話会秋期講演会・懇親会について

昨年に引き続き恒例の電気系教室懇話会は第4回目となったが、今年も松田先生始め名誉教授の先生がた、多数の先輩諸氏、教室教職員、学生諸君の参加をえて10月25日(土)に開催された。

第一部の講演会は3名の先輩に講師をお願いして、電気総合館大

嬉しいニュースを、当日開かれた昭和十六年十二月卒業の皆さんのクラス会に松田、羽村両先生と共に私もお招きを受けた席上で、私から発表して一同大喜びで乾杯した次第でした。

京大チームのこの快挙は監督のリーダーシップによる素質のある人材の獲得から選手チームの育成もさること乍ら、各選手の体力、気力、頭脳力、更に和と信頼感に支えられたチーム力によるものと思われまます。これからの科学技術

講義室において電気工学第2教室主任木村教授の司会で2時から5時まで行われた。先ず、電気工学教室主任の池上教授の挨拶の後、名誉教授の大谷泰之先生(昭和13年卒業)からは「私の卒業歴を回顧して」と題して京都大学及び御定年後の国立福井工業高専におけ

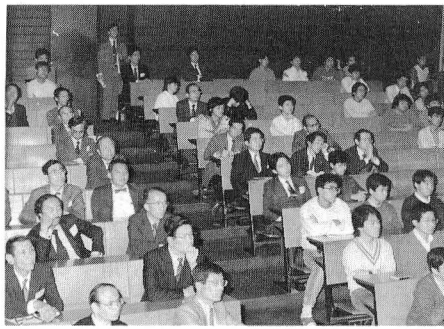
人材の養成には人間教育、心の教育も大切であり、その意味でも京大アメフ・チームの優勝は色々な教育的示唆を与えてくれるものと思われまます。何でも聞くところによると、選手の中には工学部学生が多く、学業とスポーツを両立させている優れた人材が育っていることは誠に心強い限りであります。

会長の松田先生は昨年十一月二十八日のお誕生日で満九十三才を迎えられ、京大名誉教授中の最高年令にも拘らず京大関係の諸会合には皆出席というご健勝さは誠に嬉しい限りであります。会員の皆さんもどうか、松田先生を目標にして、今年も益々ご健勝でご活躍になることをお祈りして年頭のご挨拶と致します。

る校長先生としての、教育の場からの貴重なご経験のお話をたまわった。

次に、昭和30年ご卒業で、現在国際電気通信基礎技術研究所(ATR)副社長である葉原耕平氏からは「研究所生活よまばなし」と題して研究所、および事業部門でのご経験から色々教訓的なお話を伺った。

また、第3番目のご講演には、昭和19年のご卒業で、現在沖電気工業株式会社社長であり、また通



(木村教室主任記)

信機工業会の会長としてもご活躍の橋本南海男氏に「通信機械業界の現況と問題点」と題して実業界の大変厳しい現状について有益なお話を戴いた。これらのご講演のあらまはあとに掲載する。

懇話会の第二部ビアパーティは5時から電気工学教室主任藤田教授の司会のもとで電気総合館大、中会議室で開かれ、名誉教授の前田憲一先生のご発声で乾杯した。参加者数は、約一八〇名にも達し盛会でなごやかな一夕を過ごし6時半に閉会した。最後に、今回ご講演頂いたご3方、およびこの懇話会のためにおいで頂いた名誉教授、諸先輩の方々には厚く御礼申し上げるとともに、来年も多数のご参加をお願い致します。

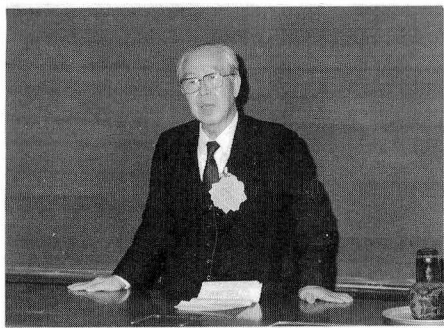


### 懇話会ご講演要旨

#### 大谷泰之先生

#### 「私の卒業歴を回顧して」

『本日は、先ず私の若い頃から京大を昭和51年定年退官するまでを簡単に触れ、最後にこの春まで勤務した国立福井工業高専の校長生活の思い出を述べたい。私は京都の出身で小学校から高等学校時代までは病気がちで何度か休学したこともあったが、その間自分の趣味を広げたり、その当時は珍しい自動車運転免許取得に挑戦したりしたほか、友人が多くなったことなど、得るところが多かった。』



大学の卒研は加藤信義先生のもとでブラウン管がテレビのディスプレイに使えるかどうかの文献調査であった。

昭和13年京大卒業直後は講師として、電気試験所のテレビの研究室内に内地研究員として1年勤務することになり、最初の撮像管であるアイコノスコープの試作に従事した。うまく絵が出たときは丁度旅行中で、電報でそのことを知らされたことを覚えている。京大に戻ってからは、松田先生と加藤先生の研究室で電気、光、熱の相互エネルギー変換に関連する研究に従事した。京大に勤務中の主な行事として思出すことは沢山あるが、特に、教室で開催された8大学電気教官協議会や、電気教室の創立50周年記念行事や洛友会の創設等

があった。次に、この3月末で8年間校長として勤めた福井高専生活では、いろいろ教えられた事が多かった。

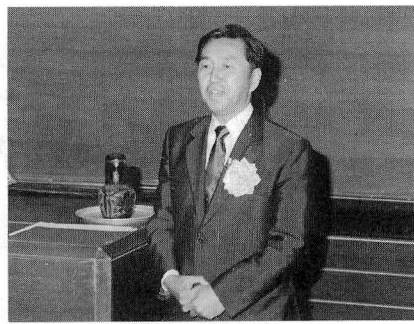
最後に、退官直前の卒業式での式辞の要点を紹介したい。すなわち「卒業にあたっては感謝の気持ちで学生生活を振り返れ。またこれからは生涯教育の始まりであり、問題発見の能力をつけよ。深く掘下げると同時に総合力を身につけること、失敗を恐れずに飛込む挑戦力をつけよ。人とのふれあいを大事にし、心豊かな人間形成を心掛けるよう。』

本年3月私の73年の人生の中で言わば第3回目の卒業をしたばかりであるが、卒業はその学園生活の終わりであると共に新たな出発でもあると言われている通り、私も京都に在住して、心新たに、財団法人のお世話の傍ら、京都科学技術専門学校長の仕事と、工科大系の大学創設の準備など比較的多忙な毎日を送っている。』

#### 葉原耕平氏

#### 「研究所生活 よもやまばなし」

『私は昭和30年日本電信電話公社に入社し、研究畑、人事、事業部門、研究管理と多分野を経験した。まず武蔵野電気通信研究所で



行った研究に関連して次のことをお話ししたい。

即ち当時話題になった2値論理素子パラメトロンの実用化の研究と無損失伝送が可能な2線式時分割通路路のためのレゾナント・トランスファ回路についての研究であるが(その原理を図で説明)、この2つの全く異なった研究テーマが共振現象を介して意外につながりあったこと、そして後者の研究から無損失伝送がインピーダンス整合によるという明快な本質が理解できたことである。

このようにして研究上の心構えとして、原理的なものの考え方がいかに大切かという貴重な体験をした。またある仕様に従ってものを作ったりするときに、往々にして仕様を十分理解せずそのまま鵜飲

みにすると、実際にはどうでもよいことに無駄な努力をしている場合がある。

上述のパラメトロン素子用のコイルが左巻でも、右巻きでもよいのに、サンブル(筆者作製)に忠実であるべく、巻難い左巻で何万個もつくられたという笑えない経験もある。何かをひとに頼むばあいでも、ひとから頼まれる場合でも注意しなければならぬ教訓である。

また人事での経験ではひと(二人称、三人称)の立場になって考えることの重要性を学んだ。

又事業部門にあつては昭和55年の神戸元町電話局の事故の際、電子交換機のソフトの虫の苦い経験をした。たまたま、担当の部下が事故発生時刻にソフトクリームを食べたという事実が引掛かり、いまだにソフトクリームを食べないでいる。

最後に10年程前にアンカレッジでの航空機の事故に遭遇し、非常用スベリ台から滑り降りたことがある。この経験から言うと、搭乗中も身分を明らかにするものは肌身はなさず持っているのがよいとか、また後でも買うことの出来るものは機外脱出時に持出す必要はない。しばしば海外旅行する方達に参考にしていただければ幸いである。

### 橋本南海男氏

#### 「通信機械業界の現状と問題点」

『本日は、通信機械工業会について少しご紹介したのち、(1)通信の自由化、(2)貿易摩擦、(3)円高の3つの問題点についてお話ししたい。』

まず通信の自由化については、昨年が実施第1年目であったが、これだけの短期間のなかで、このような思い切った施策を行ったことは十分評価できる。ただNTTとは十分評価できる。ただNTTは民営化したといつてもやはり独占企業、巨大企業であり競争原理の段階ではなんらかの外部規制、内部自制が必要であろう。現在第1種通信事業者が5社、第2種についてはVANの事業者が二百社に上っている。

貿易摩擦については、現在日本の通信機械の売上高の1/3が輸出であるが、このところ59年度までは特に北米への輸出の伸び率が異常に高かった。しかし60年度はマイナスになっている。また日本の通信機の北米への輸出入額の差は12億ドルで我が国の輸出超額の2パーセントにすぎない。従って額の上では僅かであるが、米国では日本の伸び率と、通信機技術がハイテク技術であることを問題にしている。現在、通信機工業会と



しても米国籍企業をメンバーにしたり、現地生産を奨励したり色々努力している。

第3番目の円高の問題は最も深刻である。円にはレートの外に物価指数を勘案した購買力平価があるが、これは昭和58年に二百円となり、徐々に上がって現在やっと百七拾円台にまであがってきた。円のレートもこのようになだらかに動くならばなんとかやわっていきけるが、最近の変化は少し激しすぎる。これの対策としては今までの製品ではなく次の時代の新しい製品を出して闘っていく以外にはない。

本日はこれから社会にでる学生諸君を前にしてこの業界のきびしいお話をしたが、この分野の企業では仕事は忙しすぎる程あるので

前途は大変明るい見通しである。学生諸君は企業にはいられたら、いそがしいのは当り前なので、それを楽しんでやるように心掛けてほしい。自分の仕事をいやいややるほど辛いことはない。

### 教官の移動

前号以降の教室教官の移動は、左記の通りであります。

安浦寛人  
昭和51年3月、京大工学部情報工学科卒、修士課程を経て昭和55年3月同博士課程中退、同学科矢島研究室助手、11月1日付、半導体工学講座(田丸教授)の助教授に昇任。

竹田美和  
昭和47年3月、京大工学部電子工学科卒、修士課程を経て昭和52年3月博士課程単位修得退学、同年4月より電気応用工学講座(佐々木教授)の助手に採用、11月4日付、同講座講師に昇任。

高瀬冬人  
昭和53年3月、京大工学部電気工学科卒、修士課程を経て昭和58年3月博士課程単位修得退学、同年4月日立製作所入社機械研究所勤務、10月1日電力系統工学講座(上田教授)助手に任用。

### 支部だより

#### 関西支部 家族旅行会

関西支部恒例の家族旅行会は、昭和61年11月9日(日)、小浜三方五湖において、羽村、大谷、上之園、近藤四名誉教授ならびに池上教授はじめ、会員、家族計二二三名の参加を得て行なわれた。

集合は、ホテル阪神駐車場および関西電力京都支店駐車場で、それぞれバス2台および3台が、8時、8時50分に出発した。

ともに、山科から大津バイパスに入り、堅田のさくらモーターで





待合せ、合流。堅田から志賀町木戸までは、部分的に開通している湖西道路を走る。この時は、空模様も意外によく、きれいに整備された小高い道路から、湖西の秋色をたのしむことができた。木戸からは、一八一号線。幸に、道路渋滞もなく、近江舞子、南北小松、自鬚浜などを経て、今津に至り、今津からは三〇三号線で山越え、上中を通って、11時30分、小浜の「若狭フィッシュヤマンズワーフ」に着く。

に浸食されてきた奇岩怪石を背景に、船上では、写真を撮る人が多かった。

約1時間ののち、「フィッシュヤマンズワーク」に帰り、ここで昼食兼懇親会。藤本支部長挨拶のあと、大谷先生からお話をうかがい、会員は、「シーフードパーベキュー」をつきつづつ歓談、そのあとは、「フィッシュヤマンズワーフ」にある売店で、魚や菓子をお土産に買った。

残念なことに、朝方はよかったです。この頃から雨になった。その空が、またバスに戻る。

バスは、二七号線を通って、一度、上中にもどったあと、道を北向きに転じ、三方湖、水月湖の南岸西岸に沿って走り、海山口からレインボーラインに入って梅丈岳に昇る。

梅丈岳山頂に近い第一駐車場にバスを停める。雨はやまなかったが、参加者は、ほとんどがバスを出て、四周の山を鳥瞰した。天気がよければ、紅葉がさらにはつきり見られたところであるが、雨で煙っていたのは惜しかった。

やがて、全員がバスにもどると、バスは、レインボーラインを東におりて、再び二七号線に入り、敦賀に向った。

敦賀では、観光かまぼこ工場でお小休止のち、夕闇の中を北陸自

動車道に入り、名神を通して、京都駅前、大阪駅前で、それぞれ19時40分、21時20分頃解散した。

洛友会中部支部  
秋の例会

日本モンキーセンター  
見学とライン下り

絶好の秋晴れに恵まれ、本多会長以下一行は同伴者を含め18名、午前10時半、犬山市の日本モンキーセンターを訪れた。園長・小寺重孝氏よりモンキーセンターの概要とサルのお話を聞く。

日本モンキーセンターは本年度開園30周年を迎え、世界一の規模(園長曰く、二・三位がない。つまり独走ということ)と種類をもっており、天皇陛下はじめ皇太子ご夫妻、浩宮様などのご来園を仰いでいる素晴らしい博物館です。名古屋から電車とモノレール又は車でも1時間以内と、あまりにも身近にあるので何時でも行けるといふのが、不思議に一度も見学していないという会員が多かったのが今回の企画となった。

まずサルとは――必ず目が正面を向いている。(人間と同じ遠近を見分けることが出来る。これは樹上生活で木から木へ飛び移る時目測を誤らぬ為とのこと、その代り視野が狭く、振り向くという動

作は人間とサルにしかない(そうである)手足に指紋がある。これは親指が他の指と相対し物を握む時、滑らぬ為とか、この物を握める道具を使える、ということが進化の条件になった。etc.

サルは熱帯・亜熱帯の世界中に広く分布しているが、日本ザルだけが特別で、冬雪が降るような寒いところに住んでいるのだそうです。そして我々の常識にサルの顔は赤いというのはいさぐさもむしろ特例で、殆どのサルは黒かグレイ系の色で、この点からも日本ザルは非常に珍しい猿ということになります。

次にサルはワクチンなど医、薬学の研究にかかせない動物です。動物実験といえはモルモットやマウスが代表だが、これで良くて人間にも良いという保証はない。(サリドマイド児などはその典型だそう)だからサルが必要とのこと。

園長の興味あふれる話とその話術に予定時間をオーバー、5万坪という広い園内にはモンキーアパートやモンキージャングル、草原など、とても1時間や2時間でまわれない。園長の案内で南米の珍しい猿(ブラジル産のゴールデンライオンタマリンは残念ながら返還し繁殖の為に貸したのだそうだが)を見たのでお目にかかれなかつ

た。から当園の最大圧巻、類人猿舎のゴリラを見てセンターを辞した。

次は日本ライン下り。中部支部には名古屋から1時間圏内に、こんな素晴らしい観光資源があったとは。全員一同認識を新たにしました次第。

日本ライン今渡(これは桃太郎伝説、鬼ヶ島へ今から渡ると云う地名だそう)。ここは岐阜県。途中から川の中央が愛知・岐阜の県境になる。から13軒、約1時間、一行は30人乗りの小舟で、木曾の清流に身を委ねる。日本ラインとは明治の詩人志賀重昂の命名とか、



ドイツのライン河は数百屯の汽船で上下し、兩岸に多くの古城が望まれるとは全く違う感じ、途中幾つもの瀬があり、シブキを受けて急流下りのスリルを満喫する。岐阜県側は高山線と国道41号が走っている、昔の中仙道だ。愛知県側は峻しくて人の通れる道はない。終点は犬山橋の下、ここはダムになっていて夏の夜、鵜飼いで賑わうところ、国宝犬山城はすぐそばにある。

「まだ時間と元気のある人はご自由に」ということで解散、会員一同素晴らしい秋の太陽を一パイ受けてまことに心身共に健康な秋の1日でありました。(石川記)

### 同窓会だより

#### 卒業50周年記念会

私達昭和11年組は今年が卒業50周年に当るので、10月21日秋酹の京都で記念のクラス会を開催しました。集った者11名とご夫人3名でした。昨年亡くなった大森君のご夫人が出席下さって嬉しいことでしたが、長崎在住の前田君と吉田君は出席の予定が直前に欠席の連絡で大変残念でした。

この年になって芸者を入れてのドンチャン騒ぎでもあるまいと、



秋の夜長を盃を交しながらゆっくり語り合うことにしました。5名は日帰りでしたが、残った者は別席で飲み直しながら遅くまで語り合いました。

翌日は映画村や二条城を廻った後京料理で昼食、午后から時代祭を見学しました。心配した天気も持直し、御池通の指定席で、千百年に亘る時代風俗の優美華麗な行列に見とれて昔に還り、50年前の学生時代を思い起した次第です。ところで、3年前の秋伊豆下田に集り、50周年は盛大にやろうと話合っただけですが、その翌年徳岡君・鈴木君・福中君・毛利君が昨年は大森君と物故者が続き、今年になって井上君と西村君も亡くな

りました。2年程の間に7人も失い今や生存者は半数を割るという情ない有様です。先の会報に年度別の調査表が出ていましたが、11年組だけが目立って成績不良です。これでは恩師の松田先生やご長寿の諸先輩方に顔向けもできません。日頃の心掛けにしても、亡くなったのは皆品行方正で無茶はしない人ばかりで、前世の因縁とか年廻りということにも余りに極端なのでさっぱり訳が判りません。残った者はこれから健康に精一杯留意して長生きし、今後も大勢で集りたいものと思う次第です。

当日の出席者は写真の後列左から高木・富永・綿谷・那須・桜井・杉本、二列目加来・安田・黒田・森、前列は古池・大森夫人・加来夫人・黒田夫人、(世話人 森)

#### 共振会(昭16・3)

#### 秋季旅行会報告

昨年5月卒業44周年浜松大会の後、今春全員へアンケートの結果、1年半毎に旅行会、3年毎に大会を開くことになり、第1回旅行会を越前海岸探勝として関西幹事担当で催した。

昭和61・11・7、14時半芦原温泉駅に集合、バスで永平寺参詣拝観する。杉木立に聳ゆる堂塔に紅葉の錦が映え、厳肅と絢爛を兼ね

た景観に讃嘆し、夕刻有楽荘に到着入湯、19時開宴する。今回森本北陸電力社長の格別のご配慮を受けた。久方ぶり初参加の友もあり談話に楽しい時を過ごし記念撮影。翌朝9時出発、東尋坊の奇勝を探訪する。波風荒く遊覧船欠航の為、絶壁の上を散策して日本海の秋景を心ゆくばかり眺望する。柱状の節理の秋景摂理なり

秋空の奇岩怒濤に陽は照れり打ち続く棘・葦畑の花むらさき引続きバスで離合に難渋しつつ、越前海岸の絶壁の裾、漁港の軒端を走る。白波断崖に砕け岩礁たぎる絶景を賞で、「越前有情」の巨



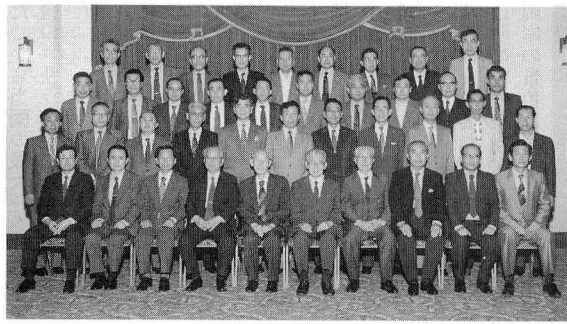
碑を仰ぎ、正太楼でお別れ昼食の美味を満喫し、次回63年春伊勢・志摩の旅での再会を約し敦賀駅で解散した。

(参加者25名○印は夫人同伴者、永安・副島・武田(正)・玉井・角田・坪井・平野・俣野・宮下・森本・秋田・嘉田・小林・大塚・窪田・高橋(正)・武田(進)・則内・真砂野・岡本)

#### 卒業30周年クラス会

#### (昭和31年卒業生)

昭和61年10月11日および12日の両日、卒業30周年クラス会を開催した。まず11日(出)は午後3時浜大津港に集合し、遊覧船ミシガンに



乗船して中秋の琵琶湖の風景を満喫した後、午後6時より琵琶湖ホテルに恩師松田長三郎先生、前田憲一先生、林千博先生、大谷泰之先生をお迎えして懇親会を開催した。出席した卒業生は36名を数え、20数年ぶりに再会した顔ぶれもあって和気あいあい、時のたつのも忘れられるほどであった。

### 西村利夫君を悼む

昭和12年卒 安田 振之助



境々 西村君

京都大学電気工学科を卒業してより50年、今年はその50周年を祝って級友相揃って京都の地にてこの10月21日集まるのを楽しみにして居た君は幽明境を異にして亡し。  
九水、九配と共に机を並べ終戦後は私は杵築に家族を疎開させて居たのでまたま生を得て帰還したとき、荒廃した国土を見て、暫

翌12日(日)はゴルフ組(八日市カントリークラブ)、観光組(市内観光コースおよび水郷めぐりコース)に分かれ、それぞれ旧交を温めあった後、再会を約して散会した。  
今回は関西西電力(瀬賀支店長の岸尾裕之氏に大変お世話になった。(安部記)

し本社勤務を避け家族の居る大分の地に勤務せんとして、君の奔走のお陰をもって大分支店に勤務、ようやく昭和26年5月電力統合の際本社に勤務することができました。  
顧みれば会社に入ったときも、第1回目の満州からの召集解除のときも、終戦後も復員後も、それぞれ君の世話にならないことは無かったのであります。

特に昭和16年末満州より帰還し、17年配電統合後食糧危機の折、火力におった渋谷君と君の生家(佐賀市郊外)におとすれ、米を分けてもらい、おはぎの接待を受けて最後の一つを渋谷君とどちらが頂くか、もじもじしたことを楽しく思い出します。  
おい、たまには下手と思わずマージャンに誘ってくれよ、と言う

相手も今は居なくなつたと思うと寂しさに耐えられませんか。  
「安さん」というあのオクターブの高い声が未だ耳に残っています。

奥さんのお話によれば、満月の夜、近隣の方のお誘いで、珍しく奥さんと二人で宴に出席された日に急に倒れられ、そのまま記念日病院に入院、治療わずか二週間にして昨日亡くなりました。

森、加来君私の四人が同級生として九州電力に仲良く勤務しておりましたが、森君は既になく今また君を亡くすとは。

あとは加来とたった二人と全く寂寞として哀惜の念に耐えませんが、君は立派な子息一人、子女一人を持たれ各々九電北九州支店に一人は巧電社に勤務し、今や君のあとを立派に継いで奥さんを大事に守って行かれるでしょう。  
どうか安らかに眠られますことを祈って弔辞に替えます。

昭和61年10月7日

### 事務局だより

「居所不明者一覧表」掲載の結果とお礼について

昭和61年10月号(第一三七号)に、「居所不明者一覧表」を掲載しま

したところ、先輩、同級生、同僚などの会員各位から多数のご連絡をお寄せいただき、11月末日までに掲載者42名中28名の居所が判明致しました。

同一掲載者に対し複数の方よりご連絡を賜りましたことを併記してご案内をいただきました会員各位に厚く御礼申し上げます。

今後共よろしくご支援、ご指導の程お願い致します。  
一口に「居所不明者」の調査といってしまうはそれまでであるが仲々、根気と手間の掛かる仕事である。

前回「居所不明者」の調査を該当所属会社の人事担当者あてに依頼したのは昭和59年8月頃で、これは洛友会名簿が電算化された直後のことであった。これらの経過については、会報昭和60年4月号(第一二二号)に記述したとおりである。

あれから2年、この62年新年号(第一三八号)を出すまでに6回会報を発行したが、会員各位のご協力によりお蔭様で最近約五千通発送して返送率は1%を割るまでに、「居所不明者」の数が減少した。  
しかしながら、「居所不明者」の数は、増えることはあっても減少することはない。気を緩めて調査を怠ると元の木阿弥になってしまふので少しの油断も許されない。

### 会報10月号返送者」の現況と調査結果について

10月号(第一三七号)は、四九八三通発送した。最近では返送率が毎回1%を割っていたのが何故か今回は77通が返送となり、再び1%を突破して一・六%となった。  
この返送者を卒業年次別に大別すると 昭和30年代 5通、40年代 34通、50年代 35通、60年代 3通で全返却数を一〇〇とした場合、それぞれ六・五%、四四・二%、四五・五%、三・八%となり、50年代の合計は90%となっている。

この傾向は、前回調査時(昭和60年4月号第一三一号)とほぼ同一の傾向を示している。

「鉄は熱い内に打て」の諺どおり、「居所不明者は早い内に捜せ」の鉄則に従って、今回も居所不明者の徹底的な調査を次の方法により行った。

- (1) 旧住所に記載の電話番号により返送者に電話する。  
電話局に転居先の電話番号が登録されておれば、そこへ連絡して新住所を確認する。この方法で5件判明。
- (2) 「京都大学卒業者人名録」に記載の住所と「洛友会名簿」の住所とを対照して相違があれば、前者に記載の住所に再発送する。

### 居所(行方)不明者一覽表

昭和61年11月末現在  
表中敬称略

本年は電算化名簿第3版の発行年に当たります。正確な名簿を作成するため、前回(昭和60年1月号)掲載しました居所不明者の一覽表を再度公表します。ここでいう居所不明者とは、居所及び勤務先が、当会名簿は勿論、京都大学卒業生名簿にも居所不明者として登録されている方をいいます。

掲載会員の同期の方、又は該当会員の消息をご存知の方は、お手数ですが事務局までご一報賜りますようご協力方お願い致します。

なお、卒業年次の次の数字は、1:電気、2:電子、3:電IIを示します。(本表中には海外駐在者で居所不明者及び電気工学講習所卒業生の方は除外してありますのでご了承ください。)

( )内は旧姓

卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名
大4	岩本雄蔵	昭14	伊藤久昭	昭23	塩田英称	昭45.1	児玉清一郎
5	佐藤重延	14	市田正称	28	俣野元	45.1	吉井明夫
8	露木純義	14	上原祐	33.1	永井井	45.3	青木勉
8	山本昂助	14	遠藤宏	36.1	小林正	46.2	上田周
9	井沢孝哉	14	黒沢千冬	36.2	小岩林	47.1	加茂一樹
12	田中正胤(住田)	15	小見山一郎	39.1	新垣真也	47.2	松岡利幸
15	津嘉田朝寅	15	小溪口直廉	39.2	岩本宗夫	47.3	山口健次
15	村瀬定彦	16.4	中近茂	39.2	加藤隆是	48.1	佐々木正文
昭3	庄源兵衛	16.12	立石行男	40.1	村上和功	48.1	原田正己
4	小田進午	16.12	畑山達雄	41.2	高田康治	48.2	谷本要
4	木戸佐一郎(松井)	16.12	日野囊治	41.3	鶴田孝司	48.3	伊沢克己
4	田村正一	17	稲穂正忠	42.1	川合一	48.3	松尾芳仁
4	高橋八角	17	鈴木木孝	42.1	菅原一	48.3	森谷正臣
4	本中角市	18	三星戸英	42.2	町田方昭	49.2	今赤福池
8	佐藤和夫(俣野)	18	星塚元塚	42.3	藤田三都	49.3	赤武元修
11	野田上文	20	鎌西井宣	43.3	飯田詔	49.3	今武元
11	野水正竹	20	鎌西井宣	43.3	飯田詔	49.3	今武元
12	水壺岐康	22	西作田幸	43.3	北野祥	50.3	安田真知
12	丸山孝雄	22	作田幸	43.3	河野祥	50.3	有田真知
14	浅川隆平	22	松浦巖	44.1	松田道	52.1	松永出一
		22	細尾真一郎	44.2	梅谷雅和	55.2	清瀬淳一

この方法により20通発送。  
(3) (2)の方法により発送したものの内、再度返送されて来た分で勤務先が判明している分は、当該会社の人事担当へ問合せの照会をする。

(4) (2)の方法で両者名簿の住所が同一で、勤務先が判明している分は(3)と同様の処置をとる。  
以上(3)、(4)の方法で勤務先への問合せの合計件数は、41件であった。この内、回答のあったものは、11月末日現在30件である。

特に今回、回答を依頼致しました当該会社の人事担当者各位にはご多用中ご迷惑なお願いを致しましたこととお詫び申し上げますと共に、ご回答を賜りました各位に深甚なる謝意を紙面を借りまして申述べます。

以上のように当事務局においては、"居所不明者"の調査には努力をしておりますので、前述の勤務先照会中で未回答の会員各位は、お手数ですが、送付調査票にご記入の上ご返送くださいますようお願いいたします。

併せて会員各位におかれましては住所等名簿記載事項に変更のあった場合には、事務局までご一報くださいますようお願い致します。

#### 会報投稿用

#### 原稿用紙について

当会報にご寄稿いただく会員各位のご便宜をはかるため、専用の原稿用紙が出来上りました。

当原稿用紙1枚の字詰は15字17行で、2枚で会報1段分に相当します。従って当用紙10枚で会報1ページ分になります。

ご寄稿賜ります際お申出いたただけが当方より無料で郵送申し上げます。せいぜいご利用、お申付けください。

#### 計報

※大5 永井 就一 昭56以前死亡  
※大7 川平 恵達

昭3 大田原隆定 61.8.6  
昭6 小林 照雄 61.11.8  
昭10 川合 幸彦 61.9.23  
昭10 杉村貞之助 61.11.26  
昭11 井上 悦夫 61.7.8  
昭11 西村 利夫 61.10.6  
昭12 井原九州男 61.10.16  
昭23 服部 嘉雄 61.12.14

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

※印は、60年版京都大学卒業生人名簿記載による。